

令和5年度 学校評価アンケート（教職員・自己評価） 集計結果

○実施日：令和5年11月24日 ○回答者数：29人

<評価の判断基準>A=よくあてはまる B=あてはまる C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない E=わからない

・AとBの合計（肯定評価）が、◎=80%以上、○=60%以上、△=40%以上、×=40%未満

No.	評価の観点	Aの%	Bの%	Cの%	Dの%
1	学校教育目標・学校経営の方針を常に念頭に置いて、職務を遂行している。	50%	50%	0%	0%
		◎			
2	経営の重点1「授業改善と学力向上」について・・・基礎基本の定着に努め、授業力の向上、生徒の学力向上を実践している。	46%	50%	4%	0%
		◎			
3	経営の重点2「特別支援教育の推進」について・・・特別支援教育の視点を意識して生徒指導を行っている。	42%	58%	0%	0%
		◎			
4	経営の重点3「組織的な生徒指導の推進」について・・・職員間の連携（報告・連絡・相談）をこころがけ、協力して生徒指導に取り組んでいる。	79%	21%	0%	0%
		◎			
5	経営の重点4「安心・安全で信頼される学校づくり」について・・・生徒の生命や安全を第一に考え、安全点検（触視）を実施し、適切な安全管理を行っている。	71%	29%	0%	0%
		◎			
6	保護者や生徒から相談を受けた時は、親身になって話を聞き、誠意を持って迅速に対応している。	83%	17%	0%	0%
		◎			
7	いじめの根絶を意識し、暴力のない学校・学級・部活動作りを実践している。	79%	21%	0%	0%
		◎			
8	進んで校内外の研修に参加し、自己研鑽を行っている。	38%	54%	8%	0%
		◎			
9	校務分掌を理解し、他の職員と協力して責任を持って職務にあたっている。	58%	42%	0%	0%
		◎			
10	部活動の顧問として、適切な指導計画のもとに経営を行っている。	38%	54%	8%	0%
		◎			
11	PDCAサイクルを実践し、教育活動の改善と質的向上を実現している。	25%	75%	0%	0%
		◎			
12	不祥事根絶を常に意識し、モラルの高揚に努め、教育公務員にふさわしい対応・言動をとっている。	83%	17%	0%	0%
		◎			
13	働き方改革を意識して、職務にあたっている。	50%	38%	13%	0%
		◎			
14	小中一貫教育の視点をもって指導にあたっている。	38%	58%	4%	0%
		◎			
15	授業の中で、学習規律の指導や生徒指導の機能を生かした授業を実践している。	67%	33%	0%	0%
		◎			
16	キャリア教育について、適切な情報を提供し、望ましい職業観の育成を実践している。	50%	50%	0%	0%
		◎			

No.	評 価 の 観 点	Aの%	Bの%	Cの%	Dの%
17	読書指導について、読書の楽しさを啓発している。	13%	71%	17%	0%
		◎			
18	生徒理解に努め、一人一人のニーズに応じた支援を実践している。	63%	38%	0%	0%
		◎			
19	いのちを大切に作る心、思いやりの心を育てるとともに、人権意識の向上を図っている。	63%	38%	0%	0%
		◎			
20	望ましい生活習慣や規範意識の育成を実践している。	58%	42%	0%	0%
		◎			
21	生徒の自治・自立のための指導を実践している。	50%	50%	0%	0%
		◎			
22	学校は、積極的に保護者や地域の団体・行事に関わりを持っている。	54%	46%	0%	0%
		◎			
23	学校は、各種便りや保護者会で、教育方針を伝えたり、生徒の様子を具体的に紹介している。	71%	29%	0%	0%
		◎			
24	学校は、地域の人材や教材を積極的に活用している。	33%	58%	8%	0%
		◎			
25	学校は、小学校や高等学校と連携し、系統性のある学習指導・生徒指導を実践している。	29%	67%	4%	0%
		◎			

《教職員アンケートのまとめ》

- ・生徒指導に関する項目（4・6・7）については、A（よくあてはまる）の割合が多くなっており、日頃から意識して業務にあっていることがわかる。
- ・全体的に肯定的評価が高いが、AよりもBの割合が高いものも見られる。

〔今後の課題〕

- 学校全体の教育活動は、学校教育目標に則って展開されている。教職員が目標に対する具体的な手立てをより意識することで、旭中の教育のさらなる質的向上が期待できる。
- 生徒指導、教育相談について、個々の生徒に寄り添った対応を丁寧に進めているが、個々や集団の抱える課題（問題）が、より複雑化・多様化しており、対応に苦慮することも多くなってきている。若年層の教職員が増加傾向にある状況である。校内外の研修に積極的に参加し、教職員の資質向上に今後も努めていきたい。